

今回の石造遺物は、どの地区にもある「六地藏さん」について特集します。茅広江百話「語り伝えたい昔の話」に掲載された記事をもとに、抜粋して、まとめてみました。

19 六地藏さん

場所 上茅、下茅、広瀬
時代 江戸時代

どこのお墓や三昧（さんまい）にも六地藏さんが祀られている。しかし、どうして六地藏さんをお祀りするようになったのであろうか。お地藏さまの信仰が始まったのは平安期だといわれている。現世利益の仏様といえば、それは何といても観音さまであり、お薬師さまであるが、それが鎌倉から室町時代になると、お地藏さまの信仰が増し、江戸時代になるとおびただしい異名のお地藏さまが現れ、お寺の境内や村境、村の辻、道端、峠に造像建立されるようになった。



上茅原の六地藏

何の行もできない人も、お経の一つも唱えられない人も「お地藏さん、お地藏さん」と呼んで、自分の願いを訴えてきたが、お地藏さまほど数多く造られた仏さまはなく、お地藏さまほど無造作に、しかも親しみ深く祀られる仏さまはない。

お地藏さまの心は、この世の人々がみんな仏心を育て、人世のあらゆる苦しみから救われるまで自分は（お地藏さまは）どんなつらい目にあっても立ち続け、導き続けるという菩薩行にいそしんでおられるのである。

そして、お地藏さまはただ人間世界だけでなく、その感化と救済は六道、すなわち地獄、餓鬼、畜生、阿修羅、人間、天上の各界にまで及び、六地藏として六体のお地藏さまが造られるようになったのである。



下茅原の六地藏

衆生が自らの行為に、業（ごう）によっておもむく世界は、地獄、

餓鬼、畜生、阿修羅、人間、天上の六種で、そこでいかなる人が地獄に落ちるか、いかなる人が天上界に行けるかは次の通りである。

天上界に行ける者は、十善を守りたる功德による者で、快樂におぼれ死の苦しみのある世界、すなわち恵まれた生活を当たり前と思い、より以上の快樂を求め。そして死の直前になると五衰の苦がある。

人間界は、五感を保ちたる功德による者が行け、生、老、病、死、及び災害のある世界である。

阿修羅界は、驕慢の煩惱と行為による者が行く世界で、平和のない世界、闘争に明け暮れる世界である。

畜生界は、愚痴の煩惱と行為による者が行く世界で、動物的無道徳の世界、無知の世界である。

餓鬼世界は、貧欲煩惱と行為による者が行く世界で、飢えと欲張りの世界、飢渴に苦しむ世界である。

地獄世界は、瞋恚（しんい）の煩惱と行為による者が行く世界で、罪が罪を生む極悪の世界である。



広瀬の六地藏

六地藏さんは、六体が横隊にならんでおられる所もあるし、また、阿弥陀さんを中心にして、左右に三体ずつ並んでおられる所もある。

現在、進歩的な学識者の中には、地獄とか極楽などのことを言うと、一笑に付されて問題にされない。私たちが子どもの時には親や、おじいさん、おばあさんから「嘘は言うな、無益な殺生はするな、人の悪口は言うな、人をだますな・・・そんなことをすると、地獄に落ちて苦しまなければならぬぞ。」と教えられ「まっすぐに生きるんだ、まっとうな人間になるんだ。」と育てられてきた。

お地藏さまは、死んだのちの苦しみも、この世の苦しみも共に救ってやろうとして立っておられるのである。そうってお地藏さまの前に立つと、ありがたいような、心の引き締まるような気がするのである。

茅広江さとだより

茅広江住民自治協議会
会長 若山 学
令和5年2月発行

「茅広江さとだより」発行にあたって

「茅広江さとだより」の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。平素は、茅広江住民自治協議会の活動に、ご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当協議会は一昨年、「まちづくり協議会」から「住民自治協議会」に変わり、住民協議会と自治会が一体となって、活動を進めてまいりましたが、大きな混乱もなく取り組みが進められてきたと考えております。

しかし、新型コロナウイルスの感染は明確な形での改善が見られず、住民自治協議会の活動も大きく影響を受けております。そうした環境下ではありますが、様々な工夫により、活動の幅を広げつつあります。体育祭の開催は断念しましたが、ふれあい祭りは、飲食を伴わない形で開催し、ふれあいマラソン&ウォーキングも「ふれあいウォークラリー」として、113名の参加が得られました。完全な形の日常を取り戻すにはなお時間がかかるとは思いますが、さらに試行錯誤を重ねてまいります。



助け合い組織「ちひろえ」は2年目となり、徐々

自治会部会

住民自治協議会の設立に伴い、従来の連合自治会に代わって、自治会部会が設けられました。自治会部会の開催は限定的なものとなっておりますが、月1回開催される「まちづくり会議」において、3地区の活動連携が十分に行われております。ただ、自治会活動に特化した打ち合わせが必要な場合もありますので、必要に応じて会議を行っております。また、コロナ渦で中断してしまし

に取り組みが広がりつつあります。草刈り機、防除機、トリマーなどの作業道具も充実し、利用者の皆さんに喜んでいただいております。他の地域



からの問い合わせも多く、関心の高さがうかがえます。高齢化の進展とともに、今後活動の場が広がっていくものと考えます。

また、少子化の流れが急速に進む中、小中学校、さらには保育園においても統廃合等の再編の動きが迫っています。小中学校においては学校運営協議会を中心に学校の存続に向け、議論が重ねられています。つばな保育園は茅広江地区にとって大変重要な施設ですが、小中学校の取り組みと合わせ、しっかりと話し合っていく必要があります。



最後に、これから各部会において来年度の活動計画が検討されますが、ぜひ有意義な活動を進めていただくことを期待して、ご挨拶とさせていただきます。

た大石地区、射和地区との合同研修会も今年は、11月に久しぶりに開催することができ、南ブロックの連携を深めることができました。



健康福祉部会

コロナ禍で中止せざるをえない行事も多くありました。年2回計画されていたひまわり会は、今年も2回とも実施することができませんでした。次年度は、開催内容・方法を検討して、変更しなければならぬと思っています。

しかし、外で行うグラウンドゴルフは、毎回、多数の参加者を得て、楽しむことができました。年3回の要配慮者食事サービスも、こちらが届けるのを待っていて下さる方もみえたり、また、元気な姿を見て、楽しく和やかにお話をさせていただくこともありました。残念ながら、10月の市民体育祭は、今年も中止となってしまいました。来年度は、ぜひ、行われることを願っています。



そんな中、1月に実施されたふれあいウォークラリー大会は、少し寒い日でしたが、初めての行事ということもあって、子どもから年配の方まで、みなさん興味を持って参加していただきました。113名の参加があり、楽しんでいただきました。クイズに答え、神社での宝探しなど、事務局や役員の方々には大変お世話になりました。来年度もぜひ実施したい行事です。これからもみなさんのご協力をお願いいたします。



環境・安全防災部会

防災関係の活動として、三地区合同の放水訓練を実施しました。コロナ感染症対策として、人数を制限して行われましたが、下茅原の新田近くの用水池を利用し、地元消防団の協力により実施しました。コロナ感染症対策でなかなか実施できず、久しぶりの実施でしたが、機械器具の操作、ホー

スの延長、放水の手順等を教わり、行いました。また、竹上松阪市長も会場にいられ、激励していただきました。消防団員の皆さま、各地区の参加者の皆さま、ご協力ありがとうございました。



12月の炊き出し訓練は中止となりました。また、環境関係の活動では、昨年6月発行の「茅広江さどだより」でお知らせしましたが、ささゆりの保護活動を行いました。温暖化で場所によっては開花が少し早いように思われます。甘い香りに加え、濃いピンクや白など、色とりどりの花が、各地区で開花していました。今年は、ささゆり保護のための看板を広瀬、下茅原地区に設置しました。茎に種子をつけて子孫を残すため、草刈りの時期を調整するなどの活動をしていましたが、場所によっては種子・茎がないささゆりを見かけました。開花時に動物に食べられたように思われます。どのように保護すれば良いのか、対策を考えなければなりません。



ホタル調査ですが、今年は何度も観察しました。ゲンジボタル、ハイケボタルが、梅雨になっても飛んでいました。餌になるカワニナが生息しているか心配です。

また、教育文化部会との合同行事である夏の楽しみの「川遊びアンド生き物調査」ですが、広瀬町の川原に下りていく道の草刈りを、広瀬地区の皆さまに協力していただきましたが、今年も増水のため、残念ながら中止になりました。開催時期の検討をしなければならないと思います。

今年も六呂木川、櫛田川の水質検査をしました。結果は、検査方法が変更されたため、櫛田川の大腸菌数が随分減り、飲料水としても使える良質河川の分類になりました。六呂木川の方は相変わらず大腸菌数は多かったです。

令和5年度はコロナも収束し、多くの事業が実

施されるようになることを願っています。引き続き皆さまのご協力をお願いいたします。

地域振興部会

地域振興部会では、園芸教室、広報誌発行、サツマイモ作り、ふれあいまつりを計画してきましたが、コロナ禍の中、予定していたことは、規模を縮小しながらおおよそ達成できたと思います。

園芸教室は、JA みえなかいざわサブセンターの永田さんから、野菜作りの年間計画と連作防止などの話を聞き、活発な意見もあり、時間があっという間に過ぎていきました。サツマイモ作りは、6月に植え付けをしました。今年は雨が少なく、日照りが強かったので心配しましたが、まずまずの出来でした。11月9日に、園児たちが楽しく、大きいのや、小さいのやら、袋一杯に詰め込んでいました。



ふれあいまつりは、規模を縮小して、半日でしたが、11月20日に実施しました。公民館趣味クラブの作品、つばな保育園児の作品、絵画、書、写真、手芸、陶芸、工芸作品、また、住民自治協議会の各部会の活動を、写真の展示を通じて、学ぶべきことが多かったと感じました。健康相談コーナー、農産物品評会、花苗、日用品の販売、バザー、農産物販売、各種ゲームなど、半日の催し物でしたが、それぞれに楽しんでもらったと思います。各種行事に関して役員の皆様ほか、沢山の皆さまに大変お世話になり、本当にありがとうございました。



教育文化部会

教育文化部会では、今年活動の一部で、戦争について、小さな力にしかありませんが、何かできないかと考えました。年度始めの6月の広報紙に書きましたが、テーマが大きすぎて実感がわい

てできません。2月5日に行われた映画鑑賞会では、「火垂るの墓」を上映しました。戦争ではいつも弱いものが犠牲になり、戦争は何もいいことはありません。ロシアがウクライナに侵攻してやがて1年になります。古いジブリ作品でしたが、あらためて戦いのない平和な世界が一番だということを実感しました。



さて、今年活動の反省ですが、コロナ感染症が未だに下火にならず、1年間の事業が当初の計画通りに実施することができませんでした。健康食料教室、ボウリング大会、川遊びアンド生き物調査、社会見学、相可高校料理教室、教養講座はコロナ感染症拡大防止のために見送られました。一方、つばな保育園児との交流は、完全ではありませんでしたが、一部実施することができました。

その中で、3年ぶりに実施された「ふれあいまつり」に展示するための「ものづくり教室」は、今年も何とか実施することができました。今年は吊るし飾りで、クリスマスやお正月に向けての素敵な飾り物をみんなでそれぞれ工夫して作りました。3月に行われる松阪市の公民館まつりにも出展する予定です。



また、3月18日に行われる音楽鑑賞会の「茅広江ふれあいコンサート」は、心に残る懐かしの曲、思い出の曲をみんなで歌ったり、演奏していただきます。お誘いあわせの上、たくさんの皆様のご参加をお願いします。

定期的に関わっている趣味講座の「小筆・ボールペン教室」、「読書会」、「ちひろえレストラン」の活動は、状況に応じて中止等をされたりもしましたが、感染症対策をしながら続けていただきました。

地域住民の皆様には、本部会の諸活動にご協力くださいまして、誠にありがとうございました。次年度もご協力のほどよろしくお願いいたします。